

第一種奨学金貸与月額変更願(届)(増額)

記入例

独立行政法人

日本学生支援機構理事長 殿

私は、返還総額が増すことを理解したうえで、独立行政法人日本学生支援機構奨学金の貸与月額を下記のとおり増額することを願います。つきましては、返還誓約書(兼個人情報取扱に関する同意書)で確認し、誓約した内容に加えて、貸与月額の増額に係る一切の債務に関しても、確認書並びに返還誓約書(兼個人情報取扱に関する同意書)及び日本学生支援機構諸規程に定める取扱いに従うことを誓約します。

太枠線内及び必要事項は正確に、もれなく記入し、学校に提出してください。※1~8については記入要領を確認しながら記入してください。

奨学生番号										学籍番号		ABCXXX		提出日※1		西暦 20 26 年 11 月 17 日	
6	2	X	0	4	X	X	X	X	X			生年月日		西暦 2007 年 10 月 1 日 (満 19 歳)			
学校名			学生支援大学				学年		1 年		フリガナ		シウガク タロウ				
学部・学科 (課程・研究科)			経営学部								氏名 (自署)※2		奨学 太郎				

※本人氏名の押印欄は、「変更後の借用金額」を訂正する場合のみ必要です。

変更後の借用金額 (予定・総額) ※3

2	3	0	1	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---

変更後の借用金額に訂正が生じたので、氏名横にも同一の印鑑を押印。

・本願出に記載された変更後の借用金額が予定する借用金額を上回っている場合は、貸与月額及び貸与総額を訂正してください。

以下の手順で変更後の借用金額を訂正。

- ①金額全体を二重線で抹消
- ②二重線上に本人印及び連帯保証人・保証人の実印を押印
- ③正しい金額を直近余白に記入

■ 月額変更 (「第一種奨学金の貸与月額」を参照して記入してください)

本人現住所※4 (転居予定の場合は転居先住所) (<input checked="" type="checkbox"/> 該当にチェック)		<input type="checkbox"/> 自宅	入居日 (必須)	西暦 2026 年 4 月 1 日入居		区市谷本村町10-7	
生計維持者住所		生計維持者氏名 (機構 友)		〒226-8503		神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3	
		生計維持者氏名 (機構 育)		〒226-8503		神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3	
増額始期 ※5		2 0 2 6 年 1 1 月		選択できる増額始期は記入要領※5を確認してください。			
従前の奨学金月額		3 0 0 0 0 0 円		希望する奨学金月額		5 1 0 0 0 円	
変更する理由		アルビオン大学の入学準備期間を確保するため。					

・第一種奨学金と併せて

訂正が必要な箇所は修正テープを使ったり、上からなぞり書きしたりせず、二重線を引いて直近余白に正しく記入する。

【人的保証選択者のみ】
連帯保証人・保証人それぞれが添付する印鑑登録証明書のとおり自署し、実印を押印。

■ 保証制度

<input checked="" type="checkbox"/> 連帯保証人 <input type="checkbox"/> 保証人 <input type="checkbox"/> 機関保証		私は、上記の貸与月額の増額を承諾し、記載の奨学生番号によって本人が負担する一切の債務につき、奨学金の返還の完了まで本人と連帯して保証し、関係法令及び返還誓約書等にしたがって債務履行の責を負います。	
住所 神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3 〒 226-8503		住所 東京都江東区豊洲 1-1-1 〒 135-8630	
正しい欄に記入。 (逆に記入した場合は新しい用紙に書き直してください。)		印影の一部が欠けてしまったので、訂正のため二重線で抹消し、枠内に押印し直す。	
連帯保証人・保証人欄の記入を訂正する場合は、二重線で抹消し、実印を線上に押印。		連帯保証人・保証人欄の記入を訂正する場合は、二重線で抹消し、実印を線上に押印。	

・機構届出の連帯保証人

■ 親権者又は未成年後見人

上記の者が、現在

親権者又は未成年後見人住所・氏名(自署)	※
----------------------	---

本人が未成年者の場合には一人が記入し、余白に

上記記載のとおり(学校の証明)

学校名

関係課長(※)

※証明者は課長相当

ご記入いただいた範囲内において、機構が保有するあなたの情報が提供

【増額反映月が増額始期の次月以降になる場合の振込例】 (本例では1月振込反映の申請期限までに不備が無い状態で機構に届いた場合を想定しています。)

希望する増額始期を11月としているところ、実際には11月分の振込は既に完了しており、12月分も従来どおりの30,000円が振り込まれる。

11月17日提出 11月始期を希望		10月	11月	12月	1月	2月
希望		3万円	5.1万円	5.1万円	5.1万円	5.1万円
	↓		↓ 差額 2.1万円	↓ 差額 2.1万円	↓ 計4.2万円	
実際		3万円	3万円	3万円	9.3万円	5.1万円

11月から51,000円としたいが11月は既に振込が完了

1月反映の提出期限に提出されたため、12月も振込51,000円

1月に希望の額+差額の振込
2月から希望額での振込

1月振込分にて希望の51,000円および従来との差額21,000円×2か月分の計93,000円が振り込まれ、2月以降は希望の51,000円の振込となる。

第一種奨学金貸与月額変更願(届)(減額)

独立行政法人

日本学生支援機構理事長 殿

私は、独立行政法人日本学生支援機構奨学金の貸与月額を下記のとおり減額することを願います。

つきましては、返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)で確認し、誓約した内容から、貸与月額の減額に係る一切の債務に関しても、確認書並びに返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)及び日本学生支援機構諸規程に定める取扱いに従うことを誓約します。

太枠線内及び必要事項は正確に、もれなく記入のうえ学校に提出してください。※1~6については記入要領を確認しながら記入してください。

奨学生番号										学籍番号	ABCXXX	提出日※1	西暦 20 26 年 11 月 17 日			
6	2	X	0	4	X	X	X	X	X			生年月日	西暦 2004 年 10 月 1 日 (満 22 歳)			
学校名		学生支援大学						学年	4 年	フリガナ	ショウガク タウ					
学部・学科 (課程・研究科)		経営学部								氏名※2 (自署)	奨学 太郎					

自宅外から自宅へ戻った日付を記入。

■ 月額変更 (「第一種奨学金の貸与月額」を参照して記入してください。)

機構使用欄 (変更始期)	年	月
	2 0	

本人現住所 (転居予定の場合は転居先住所) (<input checked="" type="checkbox"/> 該当にチェック)※3	<input checked="" type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 自宅外	入居日 (必須)	2026 年 7 月 26 日 入居	〒226-8503	神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3				
生計維持者住所	生計維持者氏名 (機構 友)		〒226-8503		神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3				
	生計維持者氏名 (機構 育)		〒226-8503		神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3				
変更内容 (①~④のうち)	<input checked="" type="checkbox"/> ①自宅外月額から自宅月額へ→入居日の翌月(月の初日の場合はその月)が減額始期(選択不可) <input type="checkbox"/> ②通学形態変更を伴う減額 <input type="checkbox"/> ③その他の減額(注)								
訂正が必要な箇所は修正テープを使ったり、上からなぞり書きしたりせず、二重線を引いて直近余白に正しく記入する。									
減額始期※4	2	0	2	6	年	8	月	選択で:	7月26日に自宅に戻ったので、減額始期は8月。 (①のとおり選択不可。希望はできません。) 国立大学の自宅外最高月額から 自宅最高月額へ変更。
従前の奨学金月額	51,000円				希望する奨学金月額※5	45,000円			
変更する理由	一人暮らしをしていたが、地元での就職が決まり、卒業の見通しも立ったため、実家に戻った。								

【遡って減額した場合の調整例】

(本例では1月振込反映の申請期限までに不備がない状態で機構に届いた場合を想定しています。)

自宅外から自宅に戻ったことに伴い、本来は8月から45,000円とするべきところ、8月から12月までの間、毎月差額6,000円、計30,000円の振込超過が発生している。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本来	51,000円	45,000円	45,000円	45,000円	45,000円	45,000円	45,000円	90,000円	満期
↓		↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円		計3万円	
実際	51,000円	51,000円	51,000円	51,000円	51,000円	51,000円	15,000円	90,000円	満期

8月から自宅月額とすべきところ、11月まで自宅外の月額で振り込まれている。

1月反映の提出期限に提出されたため、12月も振込51,000円

1月に本来の額-差額の振込
2月に本来の額の振込
(3月満期のため2か月分の振込)

1月には45,000円から振込超過となっている30,000円を差し引いた15,000円が振り込まれます。(なお、3月卒業で満期を迎えるため、2月には2か月分がまとめて振り込まれます。)

第二種奨学金貸与月額変更願(届)(増額)

独立行政法人

日本学生支援機構理事長 殿

私は、返還総額が増すことを理解したうえで、独立行政法人日本学生支援機構学資金の貸与月額を下記のとおり増額することを願います。つきましては、返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)で確認し、誓約した内容に加えて、貸与月額の増額に係る確認書並びに返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)及び日本学生支援機構諸規程に定める取扱いに従うことを誓

記入例

太枠線内及び必要事項は正確に、もれなく記入のうえ学校に提出してください。※1~7については記入要領を確認しながら記入してください。

奨学生番号								学籍番号	ABCXXX	提出日※1	西暦 20 26 年 11 月 24 日		
8	2	X	0	4	X	X	X	X	生年月日	西暦 2007 年 10 月 1 日 (満 19 歳)			
学校名		学生支援大学						学年	1 年	フリガナ	キコウ タロウ		機構
学部・学科 (課程・研究科)		経営学部								氏名 (自署)※2	機構 太郎		

※本人氏名の押印欄は、「変更後の借用金額」を訂正する場合のみ必要です。

3 1 5 0 0 0 0

変更後の借用金額 (予定・総額) ※3	機	構	2	7	6	0	0	0	0
------------------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

変更後の借用金額に訂正が生じたので、氏名横にも同一の印鑑を押印。

以下の手順で変更後の借用金額を訂正。

- ①金額全体を二重線で抹消
- ②二重線上に本人印及び
連帯保証人・保証人の実印を押印
※機関保証選択者は本人印のみ
- ③正しい金額を直近余白に記入

変更後の借用金額以外の訂正には訂正印の押印は不要。

■ 月額

希望する増額始期	※4	西暦	2	0	2	6	年	1	1	月	から				
従前の奨学金月額		3		0	0	0	円	希望する奨学金月額	※5	7	0	0	0	0	円

【人的保証選択者のみ】

連帯保証人・保証人それぞれが添付する印鑑登録証明書のとおり自署し、実印を押印。

印影の一部が欠けてしまったので、訂正のため二重線で抹消し、枠内に押印し直す。

■ 保証制度

※現在選択している場合は、上記の貸与が完了した時点で債務履行の

〒226-8503
住所 神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3

機構 友

生年月日 昭和40年 12月 1日

住所 東京都江東区海2-2-1

機構 一郎

正しい欄に記入。
(逆に記入した場合は新しい用紙に書き直してください。)

連帯保証人・保証人欄の記入を訂正する場合は、二重線で抹消し、実印を線上に押印。

【増額反映月が増額始期の次月以降になる場合の振込例】

(本例では1月振込反映の申請期限までに不備が無い状態で機構に届いた場合を想定しています。)

希望する増額始期を提出日の属する11月としているところ、実際には11月分の振込は既に完了しており、12月分も従来どおりの40,000円が振り込まれる。

	11月24日提出	11月始期を希望			
	10月	11月	12月	1月	2月
希望	4万円	7万円	7万円	7万円	7万円
↓		差額 ↓ 3万円	差額 ↓ 3万円	計6万円	
実際	4万円	4万円	4万円	13万円	7万円

11月から7万円としたいが11月は既に振込が完了

1月反映の提出期限に提出されたため、12月も振込4万円

1月に希望の額+差額の振込
2月から希望額での振込

1月振込分にて希望の70,000円および従来との差額30,000円×2か月分の計130,000円が振り込まれ、2月以降は希望の70,000円の振込となる。

ご記入情報(奨学金必要な情報)

第二種奨学金貸与月額変更願(届)(減額)

記入例

独立行政法人

日本学生支援機構理事長 殿

私は、独立行政法人日本学生支援機構奨学金の貸与月額を下記のとおり減額することを願います。
つきましては、返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)で確認し、誓約した内容から、貸与月額の減額に係る確認書並びに返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)及び日本学生支援機構諸規程に定める取扱いに従うことを誓約します。

太枠線内及び必要事項は正確に、もれなく記入のうえ学校に提出してください。※1~4については記入要領を確認しながら記入してください。

奨学生番号		学籍番号	ABCXXX	提出日	西暦 20 26 年 10 月 3 日						
8	2			X	0	X	X	X	X	X	生年月日
学校名		学生支援大学		学年	3 年	フリガナ	ショウガク タロウ				
学部・学科 (課程・研究科)		経営学部				氏名 (自署)	奨学 太郎				

■ 月額変更 (「第二種奨学金の貸与月額」を参照して記入してください。)

希望する減額始期	西暦	2	0	2	6	年	6	月	から	※①本願出を学校へ提出した月が属する年度の4月(当該年度採用者で貸与開始月が5月以降の場合は貸与開始月)以降かつ年度内の月を記入 ※②年度内精算が可能な範囲内に限ります。		
従前の奨学金月額	1	1	0	0	0	円	希望する奨学金月額	6	0	0	0	円

訂正が必要な箇所は修正テープを使ったり、上からなぞり書きしたりせず、二重線を引いて直近余白に正しく記入してください。

第二種奨学金の貸与月額を減額したい場合は、原則スカラPSを通じて願い出てください。その場合紙の書類(様式2-4)の提出は不要となります。ただし過去の振込みに遡って減額したい場合は様式2-4で手続きが必要です。

※スカラPSからも第二種奨学金月額変更(減額)の願い出が可能です。(遡った減額始期を希望する場合を除く)
スカラPSから願い出た場合、本願出の提出は不要です。
詳しくは機構HPを確認してください。



<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/saiyochu/todokede/getsugaku.html#tetuduki>

【遡って減額した場合の調整例】

(本例では年度内精算が可能かつ11月反映の提出期限までに不備のない状態で機構に届いた場合を想定しています)

これまで月額110,000円が振り込まれていたところ、6月に遡って110,000円から60,000円への減額を希望。
6月から10月までの5か月間、毎月差額50,000円、計250,000円の振込超過が発生している状態。
年度内までに精算できる期間は、11月から3月までの5か月間です。
年度内に精算できる上限金額は6万円×5か月で30万円です。

6月	7月	8月	9月	10月	11万円×5か月 =55万円	
11万円	11万円	11万円	11万円	11万円		

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~
6万円	6万円	6万円	6万円	6万円	6万円	6万円	6万円	6万円	6万円	
11万円	11万円	11万円	11万円	11万円	5万円	0円	0円	0円	0円	6万円

↑

減額始期: 6月	振込反映月: 11月	
6万円×5か月=30万円 (振込超過=25万円)	30万円-25万円=5万円 (11月振込分)	6万円×5か月=30万円 (12月~3月は振込なし)

この場合、まず11月には50,000円が振り込まれ、12月から3月までの4か月間は振込が一時的に止まり、年度末の適格認定にて継続(警告)の場合、新年度4月から希望の60,000円で振込みが再開される。(年度内の3月をもって振込超過分の精算が完了したため、4月から希望月額での振込になります。)

※年度内に振込超過分の精算ができない減額は受け付けられません。希望月額・減額始期を見直してください。